

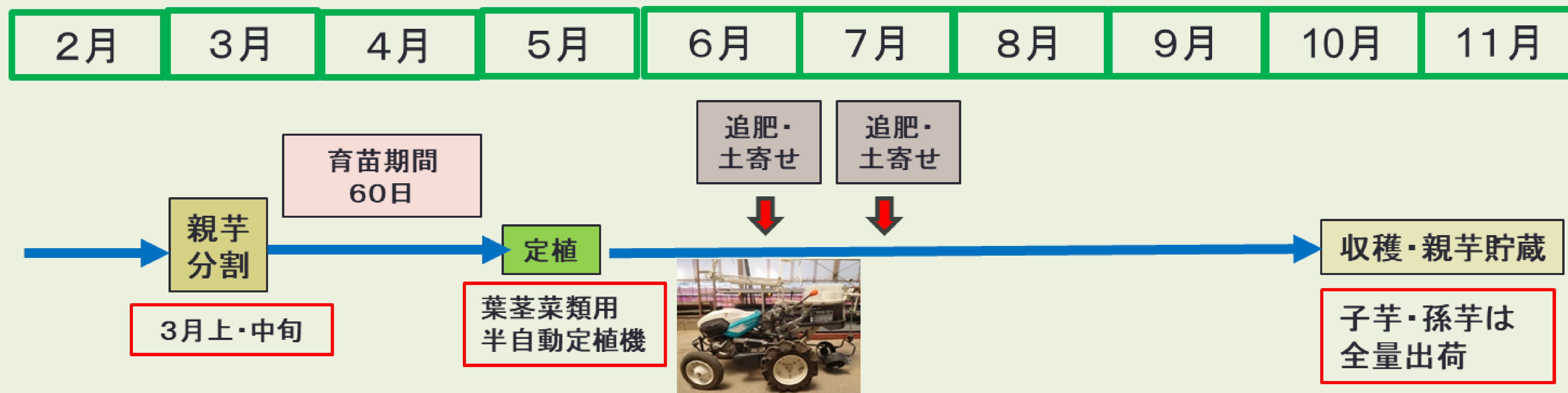
未利用親芋を活用したサトイモのセル成型育苗技術

山間農業に関する試験研究を行っている三瀬分場では、通常廃棄される親芋を活用したサトイモの効率省力栽培法の開発に取り組んでいます。

この栽培法は、親芋から苗を仕立てて機械定植を行うもので、未利用となっている親芋を利用するため、子芋・孫芋の全量出荷が可能となり、また、セル成型苗とすることで葉茎菜類用半自動定植機での省力定植が可能となります。

ここでは、この栽培法の概要と育苗法、令和7年度の試験結果を紹介します。

効率省力栽培法の年間スケジュール



効率育苗法

秋冬 サトイモ掘り取り

子芋と親芋の分離
(子芋→出荷)



子芋を分離した親芋

6℃以上で3月まで貯蔵

3月上、中旬に親芋分割



親芋の分割切片

セルトレイへ埋め込み(1切片/セル)



15℃以上の環境(ハウス)で管理

5月中旬(60日後)に定植



定植時の苗

令和7年度の試験結果

表 親芋の分割時期と萌芽率

分割時期	萌芽率(%)
3月上旬	83.5
3月中旬	74.8
3月下旬	88.2

※萌芽率は、分割・埋め込み後、約20日の結果

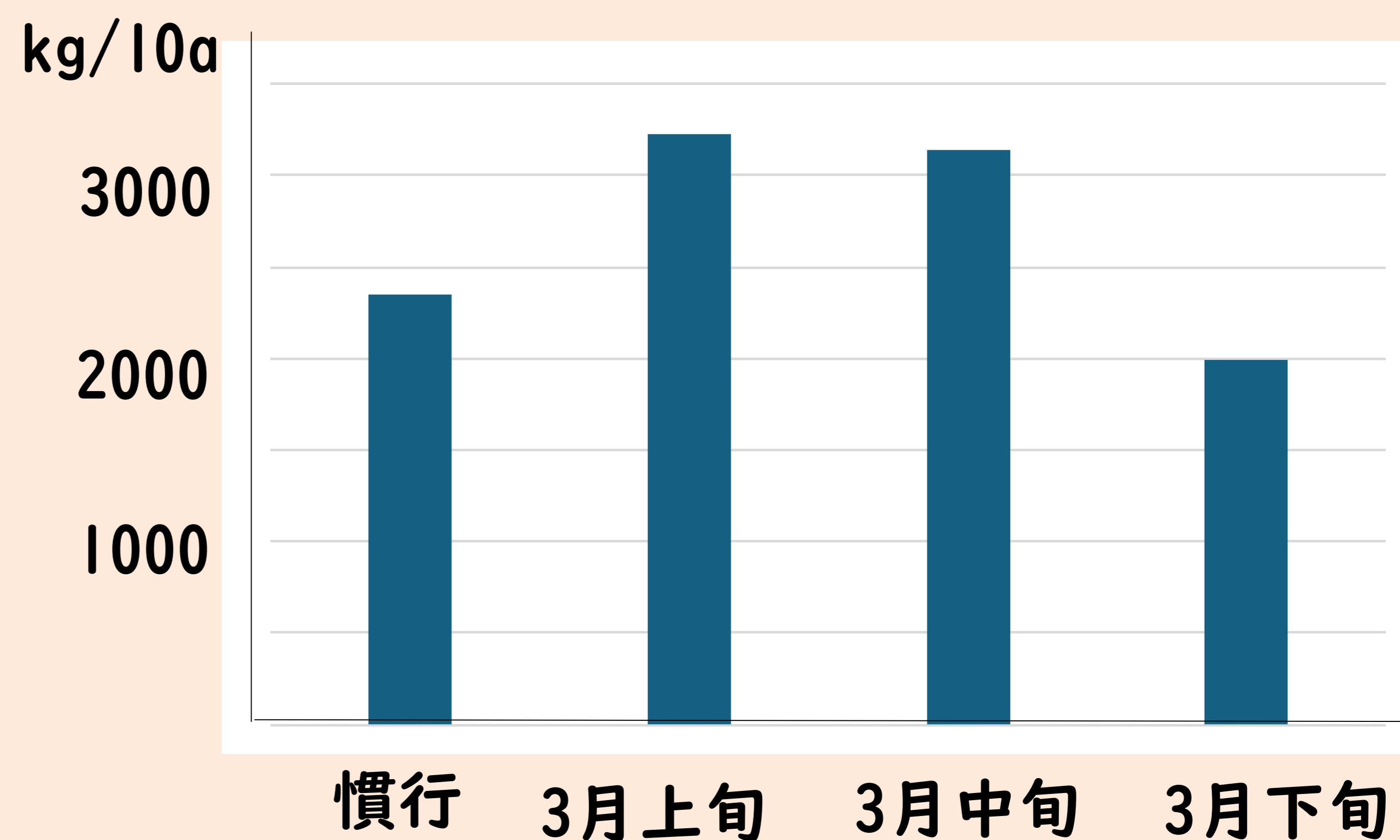


図 分割時期の違いと上物収量

※慣行は種芋を人力で植付け